

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	ヨコハマゼロワン運営支援														
事業の実施者	団体等	ヨコハマゼロワン運営支援コンソーシアム													
	行政	政策経営局共創推進課													
事業の目的	<p>脱炭素やネイチャーポジティブ、循環型経済をテーマにした取組を若者たちが主体的に企画実践するプロジェクト「ヨコハマゼロワン」の活動を継続的に支援し、その活動内容を広く発信することで、サーキュラーエコノミーplusの推進や、GREEN×EXPO2027に向けた機運醸成を図ります。若者たちが自ら考える力や創造力を育む機会を提供するとともに、市民全体に対して脱炭素やネイチャーポジティブ、循環型経済に関する新たな価値観の創出や行動変容につなげることを目的とします。</p>														
事業の内容	<p>(1) ヨコハマゼロワンの活動支援 (2) ヨコハマゼロワンの活動に関する広報 (3) 委託者と受託者の定例会の開催 等</p>														
役割及び責任分担等	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業項目</th> <th>受託者の役割</th> <th>委託者の役割</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヨコハマゼロワンの活動支援</td> <td> 1 活動報告・提言に向けた助言・支援 2 ヨコハマゼロワンのメンバーによる会議の開催支援 3 ヨコハマゼロワンの追加メンバー募集の支援 </td> <td> 1 活動報告・提言に向けた全体調整 2 庁内関係部署や各種関係団体・企業との連絡調整 </td> </tr> <tr> <td>ヨコハマゼロワンの活動に関する広報</td> <td> 1 各法人が管理しているHPや各種広報媒体等での広報 </td> <td> 1 共創推進課が管理している各種広報媒体等での広報 </td> </tr> <tr> <td>委託者と受託者との定例会の開催</td> <td> 1 委託者と受託者の定例会の開催及び出席 2 アジェンダ及び資料の作成・準備 3 議事概要の作成 </td> <td> 1 委託者と受託者の定例会の開催及び出席 </td> </tr> </tbody> </table>	事業項目	受託者の役割	委託者の役割	ヨコハマゼロワンの活動支援	1 活動報告・提言に向けた助言・支援 2 ヨコハマゼロワンのメンバーによる会議の開催支援 3 ヨコハマゼロワンの追加メンバー募集の支援	1 活動報告・提言に向けた全体調整 2 庁内関係部署や各種関係団体・企業との連絡調整	ヨコハマゼロワンの活動に関する広報	1 各法人が管理しているHPや各種広報媒体等での広報	1 共創推進課が管理している各種広報媒体等での広報	委託者と受託者との定例会の開催	1 委託者と受託者の定例会の開催及び出席 2 アジェンダ及び資料の作成・準備 3 議事概要の作成	1 委託者と受託者の定例会の開催及び出席		
	事業項目	受託者の役割	委託者の役割												
	ヨコハマゼロワンの活動支援	1 活動報告・提言に向けた助言・支援 2 ヨコハマゼロワンのメンバーによる会議の開催支援 3 ヨコハマゼロワンの追加メンバー募集の支援	1 活動報告・提言に向けた全体調整 2 庁内関係部署や各種関係団体・企業との連絡調整												
ヨコハマゼロワンの活動に関する広報	1 各法人が管理しているHPや各種広報媒体等での広報	1 共創推進課が管理している各種広報媒体等での広報													
委託者と受託者との定例会の開催	1 委託者と受託者の定例会の開催及び出席 2 アジェンダ及び資料の作成・準備 3 議事概要の作成	1 委託者と受託者の定例会の開催及び出席													
実施期間	令和7年9月29日から令和8年3月31日														

記入日	令和8年3月31日
記入者	[団体等] ・団体等名： ヨコハマゼロワン 運営支援コンソーシアム ・記入責任者 NPO法人まちと学校のみらい

	代表理事 氏名： 竹原 和泉 連絡先： 090-3146-5395
	[行政] ・ 部署名： 政策経営局共創推進課 ・ 記入責任者 氏名： 佐藤 晴昭、曾根 大樹 連絡先： 671-3995

2 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	B
2	お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めることができましたか。	A	B
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合って役割分担を決めることができましたか。	A	B
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合ってよく理解することができましたか。	A	A
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	B

②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	B
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	B
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	B	B
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A	B
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合って共有できたか。	A	B
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合って確認することができたか。	A	A
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	B
4	期待された事業成果を得られることができたか。	A	B

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり

(協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・ヨコハマゼロワンが立ち上がるまでの経過などを双方で共有したうえで、事業計画を検討することができた
- ・共通する事業のミッション、それぞれの役割を理解したうえでスタートできた
- ・ヨコハマゼロワンの活動において、学生たちの主体性を尊重することを第一にするという共通認識を持ち、年間計画を練ることができた

【今後改善が必要と思われること】

- ・年間スケジュールがあいまいな状況のまま進めてしまったので、次回以降は計画段階でスケジュールのすり合わせが必要である

事業実施

(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・ヨコハマゼロワンの活動の主体となるメンバーの思いを汲みながら、事業を進めることができた
- ・一方で若者の主体性を重視することで、イベントに向けた準備が後手に待っている印象を受けた
- ・共創推進課が事業説明をし、学生たちのワークショップの様子を見る機会があったことは、相互理解の土台となった
- ・市民協働推進センターの利用に際し、団体登録手続きが終了するまでの間、共創推進室が予約しサポートできたので、活動の持続性が保たれた
- ・委託者・受託者の定期ミーティングによって、常に活動状況を共有し、円滑な事業推進ができた

【今後改善が必要と思われること】

- ・イベント開催に向けたスケジュールやタスク管理については、日ごろからメンバーとやりとりをしている受託者がある程度ディレクションしていく必要があると思った
- ・受託者と委託者との定例会で活動状況の報告をいただいたが、口頭での報告が多かったので議事録など資料に落とし込んだ形で報告いただいた方が、双方の認識にずれが出づらいうように思えた
- ・また、定例会の日程調整が直前に行われることがあったので、毎月第●●曜日など、開催日の目安を設ける必要があると思った
- ・GREEN×EXPO 2027 をマイルストーンにするとき、他の部局・区役所等との連携が不可欠であり、全容がみえにくかった。より効果的に事業を推進するためにも、今後は関係部署を広く巻き込んだ連携体制の構築が課題である
- ・追加メンバー募集に際して広報よこはま（はま情報）を活用したが、掲載できる情報量が少なかったの

で、より効果的な他の広報手段を検討する必要がある

事業の成果

(協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)

- ・若者の支援を本業にしている団体でコンソーシアムを構成し、日常的に若者とコミュニケーションをとりながら事業を進めることができたので、本委託業務の目的の1つである「若者たちが自ら考える力や創造力を育む機会を提供する」という点は達成できた
- ・委託者・受託者相互の役割、強みを活かしヨコハマゼロワンの活動を行うことができた
- ・コンソーシアムの強固なネットワークが力を発揮し事業を推進できただけでなく、横浜市における青少年育成、次世代育成をテーマに顔の見える信頼関係が強くなり、今後につながっている
- ・GREEN×EXPO 2027 のテーマであるカーボンニュートラル・サーキュラエコノミー・ネイチャーポジティブについて、学生たちが自ら学び、発信するプロセスを通じて理解が広がり、主体的な関心と参加意欲の芽生えにつながった。これは大人による一方向の広報・普及とは異なり、学生一人ひとりの当事者性を起点とした参画を生み出す契機となった

自由記入欄